

# いじめを本当になくすためには

八街市立八街中学校 二年 竹下 美海

私は日本のいじめ問題の捉え方、対処の仕方を変える必要があると思います。

今の日本ではよく、いじめをしてはいけないという言葉を知ったり、街中に「イジメ、ダメ、ゼッタイ」と書かれたポスターを見かけたりしますが、果たしてこの考え方は正しいのか、この考え方でいじめはなくなるのかと、私は疑問に思います。

例えばいじめが起きたとき、日本人の多くがいじめられた人の話を聞き、寄り添うでしょう。ですが、いじめた側の話を聞こうとする人はとても少ない印象であるとともに、いじめた側が悪い、加害者だと軽蔑する人もいます。私はその考え方、思想は多くの人々が小さい頃はいじめはしてはいけないという言葉を知ることによって聞き、見てきたからなのだと考えました。ただこの多くの人たちが悪いというわけではなく、何があっても自分の感情をコントロールし秩序を重んじてきた人だからこそ、いじめをする人のことが理解できない、おかしいと感じてしまうのではないかと思います。

でも、必ずしもいじめをした人が悪いというパターンというわけでもありません。いじめをするのには相手がずっと嫌がらせをしてきたからなのかもしれない、小さい頃から家庭環境が悪く、愛情をもらえていないため、人との関わり方がわからないだけなのかもしれない、精神的な病気や疲労を抱え持っていて誰にも気づいてもらえないのかもしれないというようになにか理由がある人もいます。もちろん環境やストレスのせいだから何をしても良いということではないです。ただ、このように頑張り過ぎなくらいたくさん頑張ってきた人が一概に加害者だ、悪者だと捉えられてしまうのは仕方のないことなのではないでしょうか。また、いじめという非行に走ってしまうということは、それだけの原因があるということなので、一種のSOSでもあるのではないかと思います。

さて、実際にいじめが起きたとき、日本ではどのような対処が取られるの

でしょうか。まず最初に事実の確認がされ、情報収集、管理職への報告、いじめ防止等対策委員会の開催、いじめられた人の話を聞き守る、いじめた人の話を聞き指導する、という流れが一般的なのだそうです。いじめた人といじめられた人のケアが行き届いているように見えますが、事実として二〇二二年のいじめ発覚件数だけでも約七〇万件と過去最多記録を更新しており、増え続けているのがわかります。果たしていじめられた人を守り、いじめた人を指導することでいじめは解決され、なくなっていくのでしょうか。

私はいじめが起きるのにはそれなりの理由があると思います。現代は精神科に通う人が増え、精神疾患を抱えている人も多く、ストレス社会であるといえます。本人は悪くないけれど、精神疾患によって感情がコントロールできない人も少なからずいると思います。本人では気付けないSOSを周囲の人に気づいてもらうためにも、いじめが起きた際にはいじめに関わった人全員に必ずカウンセリングを受けてもらいたいです。そして、頼ること、助け合うこと、休むことの大切さを知ってもらい、精神的な理由でいじめをしてしまう根本的な理由から減らしていくことができれば良いと思います。

いじめが起きた時にいじめた人を悪だと決めつけるのではなくその背景まで捉える必要があると思います。みんなが安全に安心して笑顔で過ごす上ですべきことではないことは確かです。いじめた人が悪いという固定概念からいじめた人にも何か理由があるのかもしれないという柔らかい考え方に変えるだけで、いじめをした人の見え方、対応の仕方も大きく変わっていき、いじめの根本的な対策にもつながるので、いじめが少しずつ減っていくのではないかと考えました。そのため、私は日本のいじめの捉え方、対処の仕方を変える必要があると思います。